

氏名	横 田 忠 明
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3030号
学位授与の日付	平成8年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Diagnostic Sensitivity of Motor Nerve Conduction Studies in Ulnar Neuropathy at the Elbow (肘部尺骨神経絞扼障害における運動神経伝導検査の診断 精度)
論文審査委員	教授 庄盛 敏廉 教授 徳永 勲 教授 黒田 重利

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肘部尺骨神経絞扼障害の76症例を臨床病期別3群(Grade I~III)に分類し、肘部における最大運動神経伝導速度(MCV)とM波振幅比について分析した。測定値の異常判定基準設定のために、20~89才までの150名(年代別6群)の健常人を調査した。その結果、MCVの正常下限値(95%信頼限界)は60才未満と60才以上の年代別2群に設定され、前者で54m/s、後者で50m/sであった。M波振幅比はどの年代間にも統計的有意差を認めず、95%信頼下限値は一律に0.82(肘上/肘下)であった。M波導出例(64例)におけるMCV異常は、Grade Iで61.1%、Grade IIで84.6%、Grade IIIで100%であった。MCVと振幅比のうち少なくとも一方の異常はGrade Iで66.7%、Grade IIで89.7%、Grade IIIで100%であった。

M波振幅比の低下は、刺激2点間における局所脱髄病変の存在を示す。年代別正常値を考慮したMCVと振幅比を併せて評価すれば、異常検出率の向上だけでなく、病変が髄鞘主体か軸索主体かも推測できる。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は末梢神経疾患の一つである肘部尺骨神経絞扼障害について、肘部における最大運動神経伝導速度とM波振幅比を指標にして電気生理学的に研究したものであるが、従来ほとんど行われなかった両者を併せた評価が異常検出率の向上と病変の性質の推定に寄与する、という末梢神経疾患の診断学上の重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、博士(医学)の学位を得るに値するものと認める。